

公園入口の看板のひとつ

イエローストーン国立公園は、アメリカ中西部3州にまたがる広大なエリアに山林、渓谷、滝、河川、高原など大自然が広がり、定期的に噴き上げる有名なオールド・フェイスフル・ガイザーをはじめ200以上の間欠泉に恵まれ、世界で最初に登録された世界遺産12か所のひとつである。また、世界で最初の国立公園でもある。面積は四国のほぼ半分に当たる。

遙か人里から離れ、大都市とのアクセスがやや不便なために旅行日程の短い日本人観光客はあまり訪れないが、アメリカ人の中ではナイアガラ、グランド・キャニオンと並び3大人気観光地といわれている。

海拔は平均約2,000mで八甲田山や、谷川岳より高地にある。冬は雪と寒さで道路も遮断され、1年のうち2/3は平均気温が氷点下という厳しい気候のため、野草が咲き誇る初夏から初秋までのごく限られた時期に訪れなければ、その魅力に浸るのは難しい。広い国立公園内は道路も整備され、ところどころ不意に姿を見せる野生動物たちの出現に戸惑わされる。それだけに数多くの野生動物たちの珍しい生態を見られるのは楽しい。とりわけコテージなどに滞在して食事時にフツと窓の外を見ると、そこにエルク(鹿)が餌を漁りに来たり、バッファローの集団にぶつかったり目に入る野生動物たちの生態は興味津々である。ここには、熊、バイソン、狼、ムース、エルク、ヘラジカなど200種以上の野生動物が生息する他に、1,200種以上の植物も繁殖している。

公園内の往来が激しい車道の上には所々ブリッジが架かっていて、一体何のためかと首を傾げるが、何と熊など一部の動物たちが車とぶつからずに道路を安全に渡れるよう、野生動物保護のために特別に工夫して架けられた橋である。

入園ゲートは3か所あるが、南部ロッキー山麓のワイオミング州ジャクソンからグランド・ティートン国立公園を北上してモンタナ州へ抜け出るのが、一番効率的である。その入口グランド・ティートンで映画「シェーン」のロケが行われた小屋に立ち寄れば、少



映画「シェーン」の撮影で使用されたコテージを背に(右近藤)

年ジョーイが「Shane! Come back!」と叫んだあの感動的なラスト・シーンが懐かしく蘇ってくる。

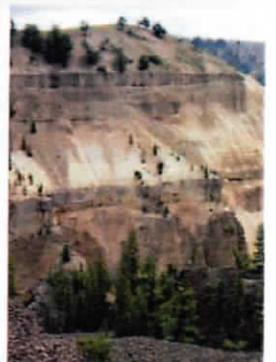
この広大な国立公園はこれまでに何度か大きな山火事に見舞われたが、最も注目され前代未聞の大



間欠泉が静かに収まっている時(Wikipediaより)

災難となったのは、1988年8月の大火である。偶々その2年前に初めてこの広大な国立公園を訪れて、その圧倒的な大自然のスケールに自分自身を見失ってしまうのではないかと思えるほど魅了されたので、遙か日本から山火事が早く収まるよう祈る気持ちで見守っていた。

この時、地元では山火事鎮火について連邦政府国立公園局内で激論が交わされていた。州知事らはただちに消火剤を空中散布して消火作業を行うよう求めたが、森林部署は自然と野生動物を保護するためにも自然鎮火を待つべきだと主張した。喧々諤々の議論の末に出された結論は、後者だった。自然に委ねることにより、全公園面積の45%を消失する結果となったが、ヘリコプターから薬剤を撒いて野生動物の子孫を、また植物子種を半永久的に根絶やしにすることを動植物保護の観点から避けたのである。多少の伐採はするが、自然鎮火を待つという結論になり、完全に火が消えるまでに3か月余りも待った。



この崖からイエローストーン(黄色い岩石)と呼ばれるようになった。(さくらインターネットより)



1988年の山火事(Wikipediaより)

火災から2年後、再びイエローストーンを訪れる機会があった。あの野生動物たちはどうしただろうか、植物は全部焼け落ちてしまっただろうか、と気にしながら4年前とは別のゲートから公園内に入るや、最初に目に入ってきたのはエルクが群れをなして走り回る姿だった。樹木は大分黒く焼け落ちてはいたが、あちらこちらに草木も新しい芽を出していた。こうしてイエローストーンは、太古のままに復活したのである。

(エッセイスト 近藤 節夫)